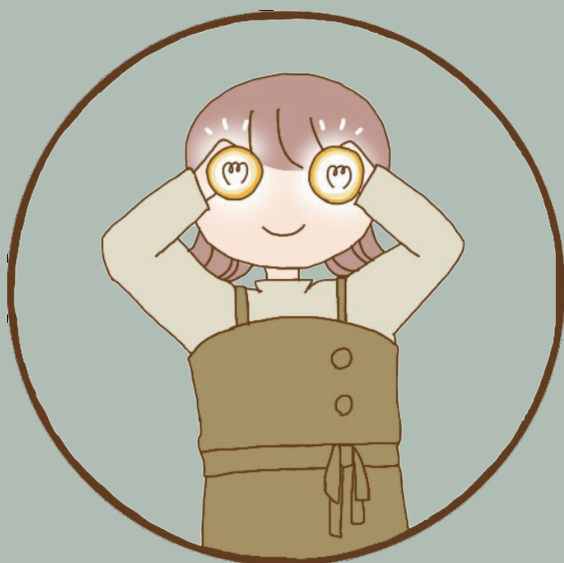


茨城大学学生広報誌

C-mail

2020年度

No.220



特集

目、輝いていますか？

【大学生の今、できること】



目、輝いていますか？

- 4 サークルインタビュー
- 6 演劇インタビュー
- 8 自転車旅レポート
- 9 私がたった半年で
1年間のアメリカ留学を決断し
準備を終了させた方法
- 10 インターンシップレポート



連載企画

- 12 ファッションスナップ
- 14 いばだいめし

大学生になったものの
何をして良いか分からない。

大学に入ってそのように感じる人も多いのではないのでしょうか。
サークル、留学、インターンシップ。大学生は社会人に比べて時間的余裕
があり、自分のやりたいことに挑戦する機会が多くあります。

せっかく大学生になったのだから、
今しかできないことをたくさん経験してほしい！

そのような願いから今回の企画を考えました。
「何か新しいことを始めてみよう」、「やってみたいことに挑戦してみよう」
そう思うきっかけとなれば幸いです。



照沼志帆●てるぬましほ
人文社会科学部現代社会学科2年（取材時）
アナウンスステーション所属。水戸ホーリーホックが大好き。
推しのサッカー選手は黒川淳史選手。

「チャレンジ」で「成長」

照沼志帆さんは、人文社会科学部 現代社会学科に所属する二年生。現在、アナウンスステーションというサークルに所属している。そんな照沼さんに、アナウンスステーションで得た経験、アナウンスステーションに入ったことでの自分の変化について伺った。

「アナウンスステーションについて教えてください。」

茨城大学の放送系サークルです。J2のサッカーチームである水戸ホーリーホックのホームゲーム運営のお手伝いをしています。活動頻度は月二・三回くらいですね。主に土日です。他にも、地域のイベントの司会などのお手伝いもしています。

「照沼さんは、アナウンスステーションの中で、どんなことをしていますか。」

私の仕事は、スタジアムでの場内アナウンスです。アナウンスは、私の他にもう一人、プロの方なんですけど、スタジアムDJという役割の方がいて、その方が水戸ホーリーホックの選手紹介や、試合間のインフォメーションのパーソナリティー

などを行っています。私は、開門するときのアナウンスとか、お客様へのお願いとかな。事務連絡が多めですね。相手側の選手紹介などもししています。あと、試合が始まる前に前座試合があるんですけど。地元のサッカー少年団が行っているもので、その選手紹介などもしています。

「元々、アナウンスに興味があったんですか。」

興味はありました。小学生の頃から音読が好きで（笑）。アナウンスをやってみたいと思っていました。最初にアナウンスステーションを知ったきっかけは、高校のときのオープンキャンパスです。人文社会科学部の説明会みたいなものが講堂であって、そこでアナウンスステーションに入っていた先輩が、アナウンスステーションについて紹介していて、「他のところでは体験できないことが体験できるサークルなんだ！」と思って、大学合格したら入ろうと決めました。

「初めて自分でアナウンスをしてみようでしたか？」

とても緊張しました（笑）。人が直接見ているわけではないんですけど、大勢の人が自分のアナウンスを聞いているんだなって思ってた。けど、最初

の二・三回で慣れました。次第に細かい部分も意識できるようになっていったと思います。

「アナウンスステーションに入ることによって自分の中で何か変化はありましたか。」

アナウンスへの興味が強まりました。ただ話す、文字を読むだけじゃなくて。場内にいる人にどうしたら伝わるかを考えると、気をつけなければならない部分も多く、難しさも感じました。あと、アナウンス以外にも興味を持ち始めました。営業や広報のスタッフの方の動きも見ることができたので、スポーツビジネスにも興味が湧きました。

「何か始めようか悩んでいる人に一言お願いします！」

何かに迷ったときは、とりあえずやってみようがいいと思います。なかなか自分が全然やってこなかったことをやるって勇気がいるかなあとと思うんですけど。私もそうでした（笑）。でも、実際に興味があつたサークルに入って、やってみたかったことができたり、夢の幅が広がったりして、「入って良かったな」と強く思いました。チャレンジすること続けていけば、その過程で自分の成長を感じることができると思います。



藤井優海●ふじいゆうみ
人文社会科学部人間文化学科3年（取材時）。現役茨大生でありつつ、水戸や東京の舞台に上がる。昨年、水戸で演劇ユニット夢幻我一流（むげんがーる）を結成。「大好きな同期と、お芝居がしたかったんです」

「やりたいこと」には いつ挑戦してもいい

茨大で哲学を学びつつ、東京でも演劇に取り組む藤井さん。なぜその選択をしたのか、学生だからこその出来ることとは何か。お話を伺った。

—最初は地元・水戸の高校で演劇をされていたと伺いました。現在は水戸に加え東京でもお芝居されていることですが、なぜ東京に？

大それたことじゃないんですけど（笑）、簡単に言えば、向こうの方が演劇をしていて気が合う人が多かった、というのが一番です。

今は本当に楽しいのですが、実は大学一年のとき、演劇やめた方が良かったって思った時期があつて。高校とかで昔楽しかったものを追いかけているだけなのかな、と考えていました。でもタイミングを同じくして、高校のときに関わった東京の劇団さんが、次回作品のキャスト（役者）募集をしていたんです。これは応募するしかない！って。なんとか無事合格して、それで稽古が始まったら本当に楽しくて。ああ私お芝居楽しかったんだ、ちゃんと好きだったんだ！って思えました。東京では、周りの人たちの取り組み方が自分の求めるやり方と近かったんです。

ただそれ以上に、最初の読み合わせから皆の技術が高くて。圧倒されましたが、自分の至らないところは全部伸びしろだ！と思い頑張りました。

—でも東京と茨城って、遠いですよね。

遠いです（笑）。でも、それが良かったんです。東京周辺に住んでいて、自分に来た依頼は何でも受ける、という若手の人も居るけれど、私は学校があるから引越せない。でもその分、自分が本当に関わりたいものだけに絞って参加することが出来ました。そういう面で、プラスだったなど。

—学生という点で、何か良かったことはありますか。

身分が保証されていること、学割が使えること。交通費が安くなるので大事です（笑）。それから帰る場所があつて、仲間が近くにいて、その仲間と密接に関われること。生活もかかっているない。現に自分は家族にも頼っているし、交通費はバイトで稼いだ分ぎりぎりまで使える（笑）。人によると思いますが、一番大きな違いはそこかな！それと、変な言い方ですが「甘く見てもらえる」部分はあると思います。現場に行けば年齢関係なくプロと同等に扱われるけど、実際にはプロではない。もし何か失敗しても、「まあ学生だから」と甘く見られやすい。ただ、普段からそう思っ

いたら腐っていくから、基本そこは考えずに、逆に越えていけるように全力で稽古していました。あとは、勉強と結びつく点です。私は哲学を専攻していて。哲学と演劇は、互いに関わり合っているなど。

—両者の取り合わせがとても興味深いです。具体的にどのように関わっているのでしょうか。

私たちは一人一人違う哲学、言い換えれば価値観を持っています。「芝居をしているときの役」は、自分と違う哲学を持って生きているんですよね。何を大事にしているかが、役によって全く違う。異なる考えの人がたくさん居るからこそ、物語は面白くなる。逆に、稽古中に触れた他の価値観（哲学）を研究にフィードバックするときもあつて。繋がったな、と感じる瞬間は多いです。

—何か始めようと頑張る人に一言お願いします。

学生である今、何でもできるわけです。だからこそ、何がしたいのかだけ見失わないように。私は目の前に演劇があつただけで。何がしたいか考える時間は大事ですが、それで迷う前に、まずやってみることをおすすめしたいです。予想より実際のハードルは高くないかもしれないし、やりたことなら、いつ挑戦してもいいと思うから。

自転車旅レポート

2019年の夏休みに、フェリーと自転車で4日間かけて帰省しました。自転車旅を通じて感じたこと、また、旅の準備を経て学んだ、「面倒な準備を進めるコツ」についてレポートします。

初めてにはたくさんのときめきが！

2019年の夏休み。私は茨城県の水戸市から実家のある北海道のオホーツク海側の街まで、フェリーと自転車で、4日かけて友達と帰りました。北海道の苫小牧に着いた日は、雨が降っている中、60km先の札幌まで自転車で移動。次の日には、タイヤがパンクし、修理に時間がかかってしまったため、日が暮れてから心霊スポットを通る羽目に…。いくつもの困難を乗り越え、実家に着いたときは、達成感・家族に会えた喜び・安心感が入り混じり、なんとも言えない心地よい気分でした。今回、初めてフェリーに乗ったり、自転車で始めていく場所を走ったりすることで、たくさんの「ときめき」を発見することができました。以前にも車で通ったことがあって川があることは知っていた道。しかし、車からその川が見えるのは、ほんの一瞬。よく見えませんでした。今回、自転車でその道をゆっくり走ったことで、その川がとてもきれいだということにも気づくことができ、嬉しかったです。

面倒な準備を進めるコツ

しかし、自転車で帰省するには、色々な準備が必要でした。正直、めんどくさかったです（笑）。ここで「面倒な準備を進めるコツ」をお教えします！

1つめ：義務感を作る

フェリーやホテルは、予約後キャンセルをする、キャンセル料を取られることがあります。早めに予約してしまうことで、行かなくてはならないという「義務感」が生まれます。そのため、おのずと準備が進むのです！

2つめ：1日1準備

たくさんある準備を一気に行うことは、とても大変です。そこで、1日1つでいいので準備を進めると、楽に準備を進めることができます！

面倒くさくて結局やっていないことはありませんか。準備をちょっと頑張ってみてください。きっと「ときめく」ことが待っています。

私がたった半年で

1年間のアメリカ留学を決断し、準備を終了させた方法

step1 決心する

大学3年生の夏休み。たまたまあるファッションブランドのバッグを目にした私は、こんな素敵なバッグを作るブランドで働きたいと直感的に思い、早速求人を確認したところ、外資系のブランドであったためどの職種も英語力が求められていました。英語を理由に諦めたら一生後悔すると思い、効率的に英語を習得するために留学を決めました。大学入学時から留学への憧れはありましたがこのバッグとの出会いが留学の大きな決め手となりました。

step2 留学方法を決める

留学方法には、大学の交換留学制度を利用した留学と留学エージェントを利用した自費留学の大きく2つが考えられます。私の場合は、大学3年生を半分過ぎており、次の交換留学の選考を待つと4年生になってしまうためタイミングが悪かったことや、一刻でも早く手続きをしてできるだけ長く留学したかったこと、英語で学問を学ぶというより、まず自分の基礎的な英語力を伸ばしたかったため留学エージェントを利用して語学学校に留学を決めました。ちなみに、私の語学学校は現地のカレッジのキャンパス内にあるため、英語力が達すれば学部聴講も可能になっています。1、2年生のうちに留学を決断し、こつこつ英語力を高め、計画的に準備を進められる人は学費も抑えられるので交換留学をおすすめします。私のように計画性の無い人や、自分に合う留学プランを組み立てたい人、留学をしたいという気持ちはあっても行動に移せないまま時間が過ぎてタイミングを失ってしまった人は留学エージェントという選択肢も考えてみてはいかがでしょうか。私は10月に無料カウンセリングを受け、約3回のカウンセリングで留学の詳細を決定し終えました。交換留学以外の選択肢もあることを頭の片隅においてみて欲しいです。

私は大学3年生である2020年の3月から1年間、休学をしてアメリカのボストンに留学します。3年生の夏休みに留学を決心し、10月から留学エージェントで手続きを始めました。準備期間はわずか5ヶ月。英語もろくに話せないし、計画性も無い私が留学に漕ぎ着くまでをレポートしました。

step3 費用捻出

私の今回の留学費用はすべて両親に出してもらいます。1人で留学エージェントのオフィスへ行きカウンセリングを重ね、見積もりまで出してもらったところで両親に相談しました。もし両親からお金がもらえなかった時は、常陽銀行の教育ローンでお金が借りられるという事を知っていたのでそれを利用して将来、返済するつもりでした。留学地などで費用も変わるので、カウンセラーの方に出来るだけ安い方法を考えてもらうことも可能です。

大学生という立場だからできた大胆な選択

思い立って5ヵ月後に1年間留学にいくという大胆な行動は、大学生という立場で休学という選択肢があったからこそできたものです。もし私が社会人だったら、周囲の目や仕事の多忙化などで容易に長期の休暇をとって留学というようなことはできないと考えられます。もちろん、周りが就活をするなか自分だけ違う道に進むことや、帰ってきてからの大学生活や就活への不安など心配の種は尽きませんが、今しかできない良い選択をしたと思っています。私たちには大学生という最強の環境があり自分の気持ち次第で道を開くことは可能です。やりたいことは大学生のうちにやってみませんか。

～交換留学向きの人～

- ・英語で大学の授業が受けられる程度英語力がある。
- ・計画的に留学の準備ができる

～自費留学向きの人～

- ・自分に合った学校や場所を豊富な選択肢の中から選びたい人
- ・タイミングを逃した人
- ・計画性が無い人

インターンシップ

編集員A

広告業
1 Day

編集員B

公務員
5 Days

申込み



服装



実際の様子



「インターンシップ」とは、何なのか。

簡単に言うと、**社会人として働く体験**のことだ。
自由に様々な企業を見て回れる機会も、就活前の学生ならではのものである。
「自分にはちょっとハードルが高そう…」 「入学したばかりだし…」
そう思っている人にこそ読んでほしい。
編集員が実際に参加したインターンシップについて“**ホンネ**”を語る。
——実は、意外と楽しいものだったりする。

〈編集員A (3年) の場合〉

私は3年生の夏休みに都内の広告会社の1Day インターンシップに参加しました。
元々広告業界に興味があって、リクナビでこの会社を見つけ応募したのがきっかけです。
私服参加で、お昼ご飯付きというのも魅力でしたね(笑)。
1Day 開催で気軽に参加できるにもかかわらず、実地調査やグループごとの成果発表、
それに対するフィードバックもあったりと、とても充実した体験をすることができました。
またグループを組んで一日活動したので、メンバーの子とはすごく仲良くなりました。
それぞれの大学や趣味の話をしたり、一緒にお昼ご飯を食べたり、LINE も交換したりしました。
もちろん企業での就労体験が目的で参加しましたが、
インターンシップは他大学の学生とも知り合える貴重な機会です。
参加する前に必要以上に不安がったりせずに、
“この機会を楽しむ”という気持ちでまずは参加してみるのが大切だと思います。
ちなみにメンバーの子とはインターンシップ後も交流が続いています！

〈編集員B (2年) の場合〉

インターンシップに参加したのは昨年の夏。就職先として「公務員」とはよく聞 knew けれど、
実際にはどのような仕事をしているのか、気になっていました。

ただ、申し込み方法が分からず、キャリアセンター(※)に行って詳細を訊きました。
私の行ったインターン先は、ネットでの個人登録後に申し込む形を取っており、希望できる部署も
かなり多かったです。

初日、配属先へ向かうと自分の他にも学生が数名居ました。もちろん全員初対面。
担当の方から5日間の仕事内容について説明を受けると、早速実習スタート。
地域の方対象のイベント立案をする課題型学習を中心に、資料綴じ込み等を手伝いつつ、
時にはイベントスタッフとして当日の運営に携わります。実際の業務について、
上の方にお話を伺うこともありました。

慣れない服装で身近ではない人と初めての業務、率直に言えば疲れました。
しかし日を重ねるにつれ、他の学生や職員の方々とも時折雑談も交えてお話するようになり、
活動する楽しさや深さも増していったように思います。
最終日には、職員の方の前で、5日間かけて考えたイベント案の発表をしました。
実際に立案をしている方からのコメントも頂きます。見落としていた視点を指摘され、
職員の方々はどうして様々な角度から人や社会を想いつつ働いているのだな、と気づきました。

この気づき自体は、どの職種のインターンに行っても感じることもなかのかもしれませんが、
自分にとって初めてのインターンでそのような姿勢を学べたという意味で、非常に実りある
ものでした。公務員の仕事内容も身をもって知ることができたと、行ってよかったです！

※キャリアセンター：茨大構内、共通教育棟1階の一角にある部屋。就職支援系の情報を探せる
場所、不明な点は常駐している職員の方に聞くことができます。

「春」。

少し暖かくて、少し寒い、
この中途半端な季節。
何を着て良いか分からない？
いえ、何を着ても良いんです。
この中途半端さが、おしゃれを楽しむ
にはもってこい。

今までのファッション企画では、学生
に注目してきた。しかし、先生にも
おしゃれな方がいる。
今回は、古賀純一郎先生に注目した。

古賀純一郎 ● こがじゅんいちろう
茨城大学 人文社会科学部 現代社会学科 特任教授。
専門：「ジャーナリズム論」、「外国メディア論（国際
ジャーナリズム論）」



講義が無い日はラフな格好で仕事を
進める。私服はほとんど海外で買っ
ているとのこと。講義をしている姿
とは違い、ラフな古賀先生。
一味違った。

Day1

晴れていたため、服装も自然と
晴れやかに。ニットのおなか部
分にはトナカイ。とてもかわい
らしいニットだ。



Day2



Day3

講義の日には気合が入る古賀
先生。今日のポイントは、
スカーフ。フィンセント・ファ
ン・ゴッホの「夜のカフェテ
ラス」が描かれている。

Day4

曇り空のもと、桜が満開。
桜の下でシャンパンゴールド
が輝いていた。



Ibadai Meshi

× Kitchen Car

筑大生の食に関するアレコレを紹介する「いばだいめし」。今回のテーマは『キッチンカー』です。数あるキッチンカーの中から編集員が3つを選んで紹介します。いつも食堂に行っているあなた、たまにはお金を気にせずキッチンカーでおしゃれなランチをいかがですか。

キッチンカーへの質問

- | | |
|-----------|------------|
| ①どこから来たの？ | ④こだわりや工夫は？ |
| ②おすすめは？ | ⑤なぜキッチンカー？ |
| ③なぜその料理？ | |



左はガバオライス (控えめ 500 円)。
右は唐揚げ弁当。
ガッツリの中に、紫漬けのさっぱりが効いている！
女の子でもペロッと食べ切れます！

ハッピーフード

- ①筑西市 下館
- ②ガバオライス
- ③タイの研修生の食事を作っていたのがきっかけ
- ④ガバオライスは日本人風に。野菜たっぷり。
唐揚げのソースはマヨネーズとボン酢。
- ⑤お弁当屋さんを閉めて、肩の荷を降ろして、キッチンカーを始めた。



写真は、肉味噌ミートソース (500 円)。
他にも 2 種類あります！
モチモチの生パスタが、お肉たっぷりのソースと絡み合い、絶品です！ドレッシングは手作りです☆

たんげ

- ①水戸市
- ②肉味噌ミートソース
- ③始めたときがイタリア料理のブームだったから。
あと、珍しいから。
- ④生パスタ、ソース、サラダ。
- ⑤いろいろな人と出会いがあるから。



ここのケバブは、甘口、中辛、辛口の 3 種類あります。
お肉はもちろん、野菜もたっぷり入っていてとても美味しいです。
口元にソースが付きやすいので、人の目が気にならないところでがっつくのがおすすめです。

Papa Chef

- ①イラン
- ②ケバブ (500 円)。水戸キャンパスでは中辛、日立キャンパスでは辛口が人気。
- ③ケバブは日本で人気になるだろうと考えたから。
- ④祖国の味を再現しているが、野菜を少なめにしたり、ラム肉を入れないようにしたりしている。日本人向けに醤油も少しだけ入れる。
- ⑤キッチンカーを所有していたから。

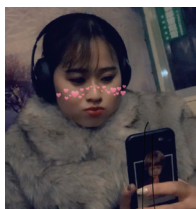


編集後記

巻中の学部・学科・学年は取材時のものです。

テーマ 編集員が今、目を輝かせているもの

内藤薫子 NOBUKO NAITO



ルマンド

人文社会科学部 法律経済学科
法学メジャー 3年

荒牧瑞稀 MIZUKI ARAMAKI



歌舞伎

人文社会科学部 現代社会学科
メディア文化メジャー 3年

小笠原彩葉 IROHA OGASAHARA



コンセプトカフェ

人文社会科学部 現代社会学科
メディア文化メジャー 3年

松本真奈 MATSUMOTO MANA



美味しいもの！

人文社会科学部 現代社会学科
メディア文化メジャー 2年

北島光 HIKARU KITAJIMA



マウンテンバイク

人文社会科学部 現代社会学科
国際・地域共創メジャー 2年

佐藤琴美 KOTOMI SATO



HUNTER×HUNTER

人文社会科学部 人間文化学科
文芸・思想メジャー 2年

岩崎由姫 YUKI IWASAKI



SEVENTEEN

人文社会科学部 法律経済学科
法学メジャー 1年

教員編集員

村上信夫（人文社会科学部）

上栗伸一（教育学部） 佐藤格（理学部）

堀辺忠志（工学部） 白岩雅和（農学部）

取材にご協力いただいた皆様

本当にありがとうございました！

C - mailとは？

✓ Campus mail の略で、学生が企画・取材・編集を行う広報誌です。

✓ 専門的な知識は不要！編集員のほとんどが未経験から始めています。

✓ 写真や文章、デザインが好きな方、取材を学びたい方大歓迎！！

✓ 興味のある方は、下記のメールアドレス、またはTwitterのDMからご連絡ください。

 c_mail_ibadai@yahoo.co.jp

 @c_mail_ibadai